

+1ハピ みんなにもうひとつのハピネスを

学校教育における普及・啓発

地域活性化

障がい者支援

地域への普及

徳島県立城ノ内高等学校

所在地：徳島県徳島市北田宮1丁目9-30
沿革：昭和55年4月開校、平成16年4月に城ノ内中学校を開校し、併設型中高一貫教育校となる
学科：普通科
生徒数：1年 202名 / 2年 236名 / 3年 236名
合計 674名(平成30年5月1日現在)

平成30年度「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト「エシカル消費」リーディングスクール事業のリーディングスクール3校のうちの1校(エシカルクラブ実践校を兼ねる)

〇JRC部の地域活性化の取組

JRC(青少年赤十字)部は、伝統的な生活の様式が今も数多く残る、徳島県三好市西祖谷村徳善地区で、魅力ある観光コース作りに取り組んだ。「秘境」と言われるこの地域には「かずら橋」や「大歩危峡」などの観光地もあり、近年では外国人観光客も増えている。平成29年4月から観光列車が運行開始すると、大歩危駅での停車時間に徳善地区を訪れる人が増え、地域では観光コース作りを計画していたが、どのようにもてなせばよいのか苦心していた。同校生徒は平成29年12月に初めて徳善地区を訪れ、地域住民の家を回り、住民が得意なことや提供できるものなどを聞き取った。みょうがが好きな住民からはみょうが狩り体験やおいしい食べ方を教わるができるし、94才の住民からは縁側で庭を眺めながら徳善地区の昔の暮らしぶりを聞くことができるなどバラエティに富んだ体験ができることを知り、この地域全体を体験できる観光コースを作成し、住民にプレゼンテーションを行った。その後、地域住民の間で、看板作りやパンフレット作成など、観光コース作りが進んだ。JRC部で継続的に徳善地区の方と交流を続け、この活動を文化祭や徳島市内で開催されるイベント等で紹介し、多くの観光客が徳善地区に来るよう働き掛けている。



〇発表会やコンテストへの積極的な参加

平成30年7月に徳島県教育委員会主催で開催された「次世代エシカルフェス」で、同校はJRC部の徳善地区での活動を発表し、また、愛媛大学社会共創学部の社会共創コンテスト2018にも応募し、クリエイター賞を受賞した。このほか、平成30年11月に行われた徳島県国際教育振興弁論大会では、「Are You Superhero?」と題し、フェアトレードや児童労働をテーマにした発表を行うなど、エシカル消費に関するテーマで各種発表会やコンテストに参加し、エシカル消費の普及・啓発にも貢献している。

〇事業・活動の概要

徳島県立城ノ内高等学校は、平成30年度から2年間、徳島県から「エシカル消費リーディングスクール」に指定され、平成30年6月から活動を始めた。県内には既に2校のリーディングスクールがあったが、2校とも専門高校であり、普通科高校としては初の指定である。同校ではJRC部や家庭クラブでの活動のほか、総合的な学習の時間を利用し、エシカル消費に関する課題研究を行っている。

〇1年生が52班に分かれて課題研究を実施

平成30年6月に1年生全員を対象にしたエシカル消費に関する講演会を開催し、エシカル消費について学んだ。その後、エシカル消費に関する7つの分野から生徒が興味のあるテーマを選択し、3~5人のグループで研究を始めた。

- ①エシカル消費の効果的な広報についての研究(ICT系)
Webページ、アプリの開発やアイデア提案、PR動画やポスター、学習コンテンツの制作など
- ②エシカル消費の効果的な広報についての研究(アート系)
ポスターやリーフレットの作成、キャラクター活用、広報イベント企画など
- ③環境問題の解決に向けた研究
様々な環境問題、エコ商品についてのマーケティング、エコ交通システム、リサイクルなど
- ④地域の活性化を目指す研究
徳島県(あるいは県内各地)の活性化のための提案、徳島大学こまつしまリビングラボとのコラボなど
- ⑤文献の調査から考える研究
歴史から学ぶ、世界から見る、統計情報を活用する、持続可能な社会とは、幸せな社会とは、など
- ⑥エシカル商品の研究と開発
地域の農水産物利用、小松島市の特産品利用、障がいがある人が育てた農産物利用、地域の素材の利用など
- ⑦世界に目を向けた研究
フェアトレード、エシカルファッションなど

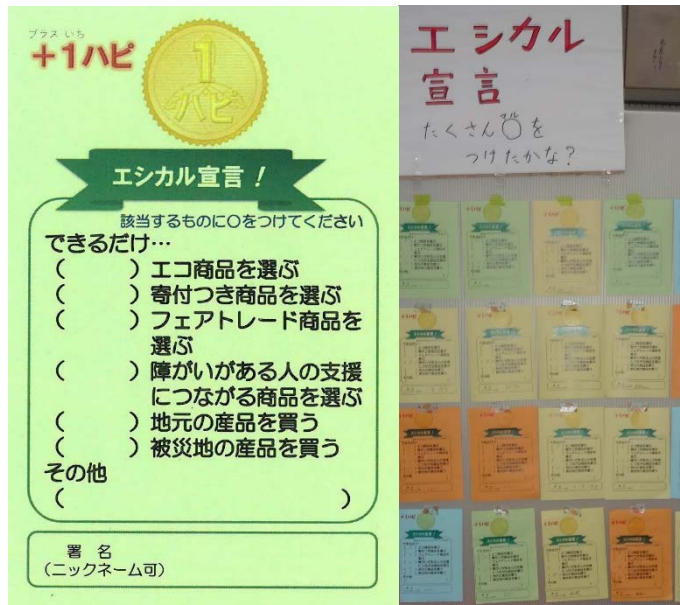
○文化祭での学校を挙げての取組

平成30年9月に開催された文化祭ではエシカル消費に関する展示や催しを多数行った。

障がいがある人の支援 事業所訪問した徳島県内や淡路島の6つの障がい者就労支援施設の紹介と商品の販売
地産地消、地元商店を応援 地元商店が作っている徳島県の特産品を使ったジェラートの販売や徳島県の特産品を使った弁当を販売
被災地支援につながる商品の販売 東北復興支援商品 岩手県の「山のきぶどう」を使用したジュースの販売
リユース活動 家庭に余っているタオルや食器、雑貨等を持ち寄ったフリーマーケット
地元の伝統工芸品を紹介 藍染めや阿波しじら織りの歴史や特長の紹介と生徒が作った作品の展示
端布を利用した商品の販売 家庭クラブが阿波しじら織りや藍染めの端布で作成した小物の販売
地域活性化の活動紹介 徳善地区の観光コースの紹介と徳島県産の晩茶、徳善地区で採れる苔玉、かづらで作ったカゴを展示販売
環境に優しい容器の使用 食品バザーでサトウキビの絞りかすから作られたバガス製の容器を使用
エシカル消費を紹介するパネル展示 家庭クラブの生徒200人が14枚のパネルを作成し、エントランスホールに展示
エシカル消費推進プロジェクト エシカル消費につながる対象商品を200円購入するごとにもらえるシールを3枚集め、「エシカル宣言」の用紙に記入し、提出すると景品と交換できる



文化祭では、「+1(プラスイチ)ハピ Get a little bit Better みんなにもうひとつのハピネスを！」と題したエシカル消費推進プロジェクトを実施した。校外からの来場者に対してエシカル消費についての説明と、文化祭で取り扱っているエシカル消費につながる商品の案内を記載したチラシと共に、エシカル宣言ができる用紙を配布した。当日は約100名が宣言を行った。



○生徒の声

同校の生徒にアンケートを行ったところ、「エシカル消費に積極的に関わっていきたい」、「これからの時代に必要な考え方だと思う」、「普段の生活でエシカル消費や関連する問題についてのニュース等を意識するようになった」という回答が多くみられた。今後取り組みたい活動について自由記述で聞いたところ、学校行事等でエシカル消費につながる商品を取り扱ったり、校外学習でエシカル消費に関連する場所を訪問するなど、実際に体験しながら学ぶことができる活動について関心を示す記載が見られた。

○今後の活動

担当教員は、生徒はアイデアをたくさん持っているが、それらを形にするための活動時間を確保するのが難しい状況であること、生徒が普段の生活で購入するような商品で、エシカル消費につながる商品が身近にないため、行動につながりにくいことが課題であると感じている。

平成31年度も文化祭ではエシカル消費をテーマに様々な取組を行う予定である。そのほかにも徳島大学や外部の多様な主体とのコラボを計画したいと考えている。

公表日:平成31年4月8日 取材:平成31年2月
外部リンク:<http://johnouchi-hs.tokushima-ec.ed.jp/>